

事例No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険経過	初診日	死亡日	疾患	事例内容	事業所とのかかわり	結果(帰結)	自治体対応など
1 46	埼玉	77	男	年金生活者	後期高齢者医療	後期高齢1割(期限:2009年7月31日)	2007/7/12	11月3日	陳旧性肺結核・慢性閉塞性肺疾	07年法人内診療所より胸部異常影精査目的で当院呼吸器科に紹介。外来定期通院し、吸入治療と経過観察をしていた。09年3月自営業(定食屋)を廃業。月15万の家のローンを抱えつつ収入が国民年金(夫婦で月14万)のみになる。09.4月に勧められた検査入院も本人の自覚症状なく、仕事の片付けで忙しいとの理由で拒否。5月の受診を最後に中断。10/19呼吸苦にて入院、肺線維症にて呼吸状態悪化され11/3お亡くなりになる。	09年3月自営業廃業後本人が自覚症状がない・仕事の後片付けで忙しいとのことで検査や受診について拒否的になる。外来看護師から電話かけもしていたが、5月の受診を最後に中断。10月入院以降SWが妻と県民共済入院給付金申請の手続き・借金整理の方策について支援。入院費については県民共済の給付金と娘さんの援助で支払われる。	妻に生活と健康を守る会での相談相談を勧め、現在家のローンを整理し、生活保護申請する方向。	
2 26	東京	57	男	正規雇用	社保		2009/8/15	8月15日		タクシー運転手。保険証は社保本人。気分が悪いと社長さんと雇用主さんと来院。糖尿病を指摘されていたが放置。放置の理由は不明。(社長さんも受診するように促していたらしい。)血糖値も測れないほど高く、意識混濁もあり、救急搬送となる。搬送中、意識不明に陥り、搬送先病院でそのまま永眠。死亡後、2Wほどして妻と組合書記局長と来院、労災申請する旨、報告があった。			
3 27	東京	58	男	非正規	正規(期限:21.7.31)	国保	2009/3/3	3月12日	なし	実母と二人暮らし。医者にはほとんど受診歴なく、健診も受けていない。24歳で発症の固まった統合失調症あるも治療・通院していない。仕事も行ったり休んだりして生活。姉妹との交流もあまり無い。病状や本人のキャラクターなど複合的だが経済的理由も受診を遠ざける要因になったと考えられる。実母の訪問診療を1年半前から行っていた。本人が主介護者。2月より体調不良を訴え受診進めるが、病院にいかず。3/3実母の訪問診療と同時に初診診療、腎不全状態で改めて病院紹介する。3/12受診予約当日の朝、自宅で倒れ救急搬入されたが、そのまま死去された。			
4 29	東京	65	男	自営業	正規	国保	2009/8/10	8月27日	多臓器不全	自営業が多忙のため一度も受診せず、初診直後の入院2週間で多臓器不全で死亡した事例	そば屋の自営業。入院10日前から悪寒。全身倦怠感、食欲低下。市販の薬を服用するが改善せず。入院4日前、さらに倦怠感強まり、周りの人から「顔が黄色い」と言われ、法人内診療所に受診。入院前日、同診療所で点滴。肝腎機能障害の診断、入院へ。腎機能などが急速に悪化。入院2週間で多臓器不全で死亡。相談記録などから「健診は一度も受けていない」、「この何年間か仕事は休んでいない」とのこと。妻と2人暮らし。	経済的問題などはカルテ、相談記録などからは見受けられず、仕事を休めない背景としての経済的問題は不明。	

事例No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険経過	初診日	死亡日	疾患	事例内容	事業所とのかかわり	結果(帰結)	自治体対応など
5 30	東京	69	男	無職	正規	国保→生保(07年7月から2ヶ月)→国保(この時期中断)→生保(09年3月24日～)	2005/1/22	11月5日	アルコール性肝炎、食道静脈瘤、胃癌	生活保護だったが妻の障害年金がでることになり、生保中止。生保水準ギリギリの生活の中で夫は約1年間、診療を中断し、胃癌が再発。入院後8か月で死亡した事例	夫は2004年12月、両下肢浮腫を訴え、2005年1月 法人内診療所が往診(国保)。2005年10月、胃カメラで胃角部の早期がんの可能性。2005年11月、胃カメラ・生検の結果異常なし。2006年9月に「お金がない」と相談。2007年1月にも経済的困難を訴え。2007年7月に生活保護取得。しかし、妻の障害年金(障害2級)がでることになり、2か月で生保廃止となった(国保)。2009年3月、自宅で腹水が大量に溜まり、動けなくなり、妻が法人内診療所に相談して受診。翌日、当院に入院となりました。それ以前ほぼ1年間、経済的理由で受診を中断。入院後の検査で胃癌の再発が確認され、その後肺や肝臓に転移し、入退院を繰り返しながら、2009年11月に病院にて死亡(胃癌の肝転移)。入院時の所持金は4000円。2か月に一度の年金支給日までもたない額で、緊急生活貸付などの制度を利用した。本人・妻の年金の合計(夫・年金119,000円/月 妻・年金49,500円/月+障害年金15,500円/月)は生保が認められるかどうかぎりぎりという状況で、MSWが区福祉に相談して、オムツ代込みで何とか生活保護が受理された(2009年3月24日付け)。家賃は月約70,000円。妻は障害などで炊事が完全ではなく、外食などに費用が使ったこともあり、生活は安定していなかった様子。当初、法人内診療所では在宅診療で診療を受けており、その一部負担金も負担と感じてあり、2008年3月には「往診ではなく外来に変えたい」と希望し、外来受診に変更した時もあった。夫は最初の入院時、介護保険の手続きを行い、法人内のケアマネージャー・訪問看護、往診の手配を行って在宅退院となった。2009年5月1日、夫の退院準備のため自宅訪問した時、電話は30件をこえるルス電がたまっていた。妻(64歳)は認知症の可能性があり、電話の操作がわからなかったらしい。掃除もほとんどされていなかった。金銭管理もできておらず、国保料など税金を滞納していた。妻の介護保険の手続きも、夫の退院前に行った。(報告者の感想)受診・入院がきっかけとなり、様々な支援ができた。もし、中断後の受診という接点がなかったら、だれにも気づかれずお二人の生活は破綻していたかもしれない。	8/26入院後大腸癌診断。手術もできない状態。本人も不安を抱えたなか、病状悪化、10/12息を引き取った。	
6 19	神奈川	62	男	非正規	正規	国保	2009/8/26	10月12日	大腸癌	兄弟身寄りなく、1人暮らし。アルバイトでタクシー運転手をしていた。他院に高血圧で通院。三ヶ月くらい下痢・血便続き症状改善されず、友人の紹介で当方クリニック受診。	精査目的で入院予定となるが所持金なく医療費心配であると、生保申請し入院となる。		

事例No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険経過	初診日	死亡日	疾患	事例内容	事業所とのかかわり	結果(帰結)	自治体対応など
7 33	長野	65	男	(定年まで富士通勤務)	正規	組合→国保退職→国保→生保	2006/6/15	1月11日	肝細胞癌	<ul style="list-style-type: none"> ・2006年6月15日腹痛で初診、会社の健診で肝臓が悪いと ・2006年6月15日腹痛で初診、会社の健診で肝臓が悪いといわれていた。15才のとき怪我で輸血歴、手術歴あり。外国人の妻と2人暮らしで他に連絡可能な身内はない ・2006年6/19～7/7腸炎の症状で入院、検査でHCV(+)肝細胞がんと診断 ・2006年8/17～9/9入院 8/23部分肝切除術。 ・2006年9月～2007年6月まで定期通院(住まいは病院から2分ほどのところにある) この間領収した医療費は外来分のうち8回のみ(1回420円～1040円)滞納額約63万円 ・2007年6月～2008年11月まで治療中断(医師の方針にあったCT検査受けず、内服薬切れている状態) ・2007年10月～2008年10月までに5回の気に患訪問するが応答なく会話できない ・2008年11月27日(時間外) 12月23日(休日)受診し精査が必要 ・2008年12/25～2009年1/11入院(食道静脈瘤治療等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・2006年9月「生活が苦しい」情報を医事課でつかみ、高額療養と生活保護取得の件で市役所への相談を勧める。(実際相談に行っているかは不明)・2007年7月末収金通知送付後本人より手紙が届く。「生活大変ですぐには支払いできない」との事、気に患対象となる。医事課の電話連絡では変わりなく暮らしている情報を得ており、医療費支払いの相談をすることにもなっていたが進まず。・2008年12/26MSW介入し、親身になって仲介してくれている元同僚と面談。1)高額療養費の限度額適応認定申請 2)2006年8月分医療費の委任払い利用確認 3)生活保護相談 を勧めた。結果 1)認定 2)廻り可能 3)年明けの検討となる。・2009年1/5生活保護のことで市厚生課担当者が来院しMSWと話月13万円程度の年金で妻と暮らしている、頼れる身寄りはない、家賃は保護基準内であることなどを確認。市担当者は審査が必要との判断で相談継続。・2009年1/7 MSWが市担当者、本人と面談し、生活保護申請書を代筆にて作成。年金担保の借入れをしていることも把握した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生保について市側は2009年1/5からと考えていたようだが、相談日は2008年12/26で、「仕事納めだから本人との面談は年明けにして欲しい」と言ったのは市側の都合であることを根拠にMSWが交渉し、2008年12/26から認めさせた。 ・過去の方は医事課担当者が妻と相談し、毎月1万円づつ支払うことになる(その後支払いはさ れていない。 ・元同僚は医療費支払いは代われないが、何かあれば連絡可能ということで、住所電話番号など情報を提供してくれている。 	<ul style="list-style-type: none"> <窓口未収金> 2007年10月 62,7880円 2009年1月11日 432,059円 2006年8月分医療費委任払いの手続きを2008年12月に行なった為
8 1	岐阜	59	男	無職	国保	期限:平成21年11月30日(正規)。A市国保→B市生保	2009/2/17	4月6日	膵癌	<p>2009年2月17日、知人と来院。強い腹痛の訴えも生活費がなく医療費が払えないと来院。膵臓癌による癌性腹膜炎のため入院となる。2007年7月に他病院で膵癌と診断、手術はできず抗がん剤(ジェムザール)の点滴を月3回受けていた。2008年12月まで土木などアルバイトで生活。注射は1回1万円、検査が必要と言われたが、お金がなく受けられなかった。2008年12月に市役所で「医療費を助けて欲しい」と行ったが無理だった。2009年2月16日、A市で生活保護の申請。A市には生活の実態がなく、生活保護はB市に引き継がれる。入院は2月17日～23日、退院後は外来通院。状態悪化し3月30日に再入院。2009年4月6日 永眠。「膵癌」の診断から1年9ヶ月本人は入院当初から「検査したかったができなかった」ことを悔やんでいた。</p>			
9 36	沖縄	59	男	正規雇用	社保	社保→生保	2008/8/31	4月2日	肺癌、脳梗塞、糖尿病	<p>起きあがれない、ろれつが回らない症状のため、救急車要請、入院。肺癌判明するも、本人が治療を拒否。延命希望せず。</p> <p>3</p>	<p>本人の情報少なくキーパーソンも不明のため病棟よりMSW紹介。保険証より事業所判明し訪問するも、本人に関する情報なし。生保申請代行。</p>	<p>延命治療希望しないため共同住宅入所。往診で対応してもらっていたが、命尽きて死去。</p>	

事例No	県連	年齢	性別	職業	保険	保険経過	初診日	死亡日	疾患	事例内容	事業所とのかかわり	結果(帰結)	自治体対応など
10 40	沖縄	73	男	無職	国保	国保	2009/1/10	2月4日	急性間質性肺炎	障害(片麻痺)ある内縁の妻と妻の家で同居。呼吸困難のため救急車要請、法人内病院へ入院。本人の年金収入が少ないため、医療費支払いが困難であると弟が生保申請を希望。手続きしようとした矢先に死亡。	ICU病棟からMSW紹介となったのが入院して2W経過後であった。身内は弟ひとり。	病状回復できずICU入院のまま死去。弟が医療費を払った。	